

令和4年度 市民アンケート 調査

皆さんの意見を市政に 反映させるために

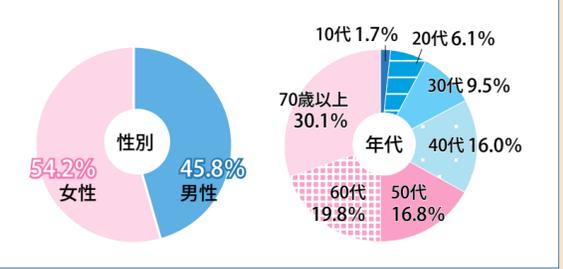
市は、市政への市民参画や協働によるまちづくりのため、市民アンケート調査を毎年行っています。昨年9月に行った調査の主な結果をお知らせします。全4テーマ30問の調査結果は、市役所本庁舎6階の広聴広報課や各支

所、各図書館などで閲覧できるほか、市ホームページにも掲載しています。
【問】広聴広報課 ☎626-7517
【広報ID】1041696

調査の概要

市内在住の18歳以上の人の中から、3000人を無作為で選び、アンケート調査票を送付。45.5歳に当たる1366人からの回答がありました。回答者の性別と年代別の比率は、右のグラフのとおりです。

※端数処理や複数回答の設問があるため、それぞれの割合の総計が100にならない場合があります
※複数回答の設問は、主な回答を5つまで掲載しています

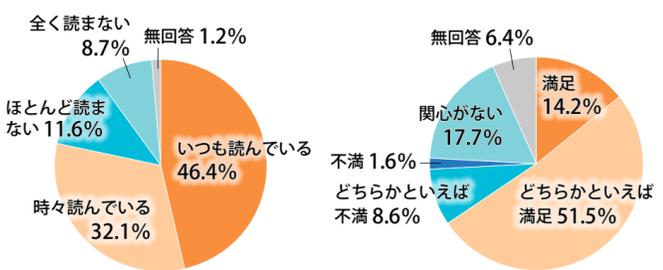


テーマ1 市の情報発信について

【担当】広聴広報課 ☎613-8369

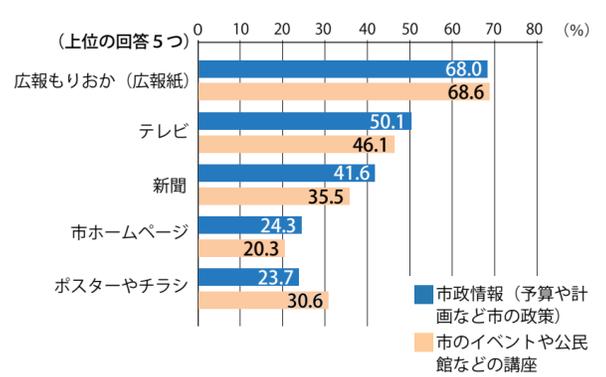
市の情報発信について

広報もりおかを毎回読んでいますか。また、広報もりおかの記事に満足していますか。



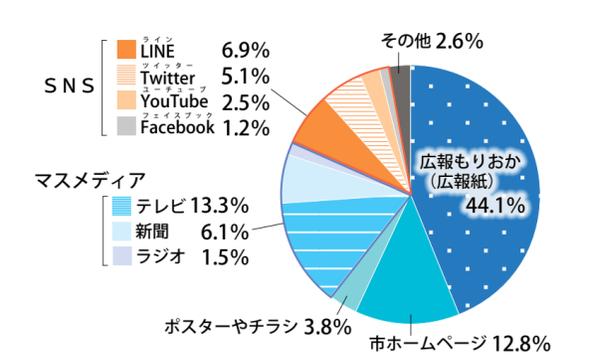
担当課から
「いつも読んでいる」と回答する人が最も多く、「時々読んでいる」と回答した人と合わせると、78.5%の人が広報を読んでおり、市政情報として広く認知されていることが分かりました。
「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は65.7%と、「不満」「どちらかといえば不満」の10.2%を大きく上回っていることから、これからも市民の皆さんの期待に添えるような紙面づくりに努めます。一方で、「関心がない」と回答した人が17.7%であり、広報紙、そして市政に関心を持ってもらえるような紙面づくりを進めていく必要があると考えます。

市政情報や市のイベント情報を得る際に利用している手段は何ですか。（複数回答）



担当課から
「市政情報」「市のイベント」とも、広報もりおかで情報を得る人が最も多く、次いで「テレビ」「新聞」と続いています。「市のイベント」に関しては、「ポスターやチラシ」も次いで高く、掲示物などにより情報を得ている人も多いことが考えられます。

今後特に力を入れてほしい情報発信の方法は何ですか。



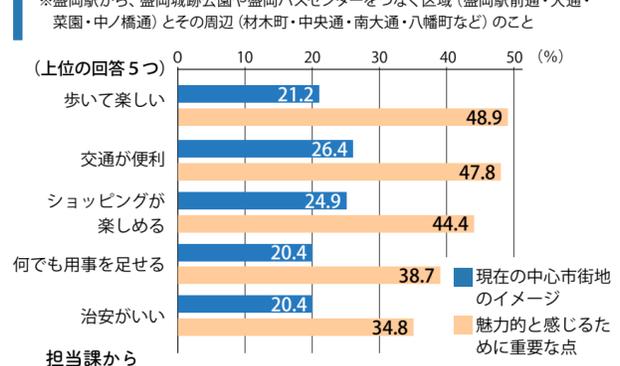
担当課から
「広報もりおか」と回答する人が44.1%と最も多いですが、「テレビ」「新聞」「ラジオ」のマスメディアと回答した人も合計で20.9%と多かったことから、広く市民に情報を伝えるため、報道機関向けの情報提供の充実を進めていきます。また、SNSは前回の調査より割合が増えており、今後力を入れてほしい媒体として期待している人が多いことが分かりました。

テーマ2 中心市街地活性化について

【担当】経済企画課 ☎613-8389

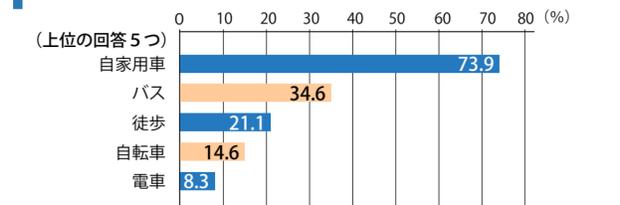
中心市街地活性化について

現在の中心市街地※にどのようなイメージを持っていますか。また、中心市街地が魅力的と感じるにはどのような点を重要だと考えますか。（複数回答）
※盛岡駅から、盛岡城跡公園や盛岡バスセンターをつなぐ区域（盛岡駅前通・大通・菜園・中ノ橋通）とその周辺（材木町・中央通・南大通・八幡町など）のこと



担当課から
「現在のイメージ」と「魅力的と感じるために重要な点」の両方で上位5つが同じ回答でした。一方で全ての項目において、「現在のイメージ」の回答の割合は「魅力的と感じるために重要な点」の半数程度にとどまっていることが分かります。さらに市民の皆さんのニーズに応え、誰もが中心市街地に訪れたいよう、取り組みを進めていきます。

中心市街地へお出かけするとき、どの交通手段を使いますか。（複数回答）



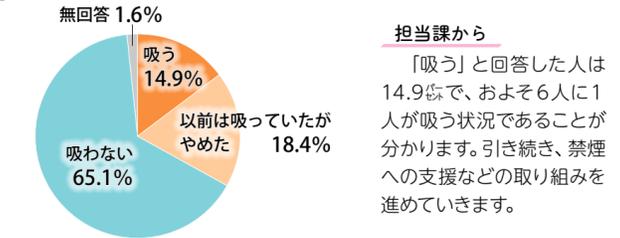
担当課から
「自家用車」を利用する人の割合が7割を超えました。前問の結果から、中心市街地の魅力向上には「歩いて楽しい」「交通が便利」であることへのニーズが高いことから、公共交通機関の充実を含めたアクセスの利便性の向上や、エリア内を移動しやすい環境の整備、商店街などでのイベント開催の促進など、中心市街地の回遊性を高める取り組みを進めていきます。

テーマ3 健康づくりについて

【担当】企画調整課 ☎626-7534

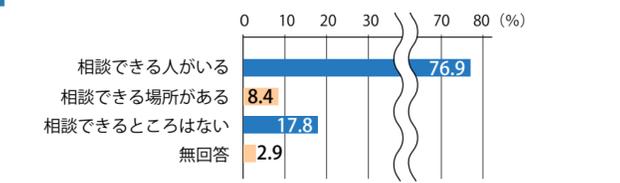
健康づくりについて

たばこを吸いますか。



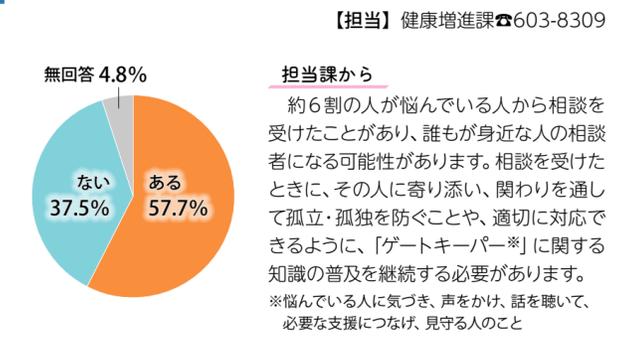
担当課から
「吸う」と回答した人は14.9%で、およそ6人に1人が吸う状況であることが分かります。引き続き、禁煙への支援などの取り組みを進めていきます。

悩みや問題を相談できる場所（人や場所）がありますか。（複数回答）



担当課から
約8割の人が何らかの形で周囲に相談や支援を求めていることができています。一方で、約2割の人は「相談できる場所はない」としており、より積極的な相談窓口の周知が必要と考えます。

悩んでいる人の相談を受けたことがありますか。



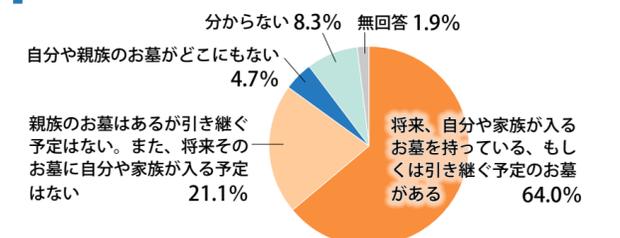
担当課から
約6割の人が悩んでいる人から相談を受けたことがあり、誰もが身近な人の相談者になる可能性があります。相談を受けたときに、その人に寄り添い、関わりを通して孤立・孤独を防ぐことや、適切に対応できるように、「ゲートキーパー※」に関する知識の普及を継続する必要があります。
※悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなぐ、見守る人のこと

テーマ4 お墓について

【担当】企画総務課 ☎603-8301

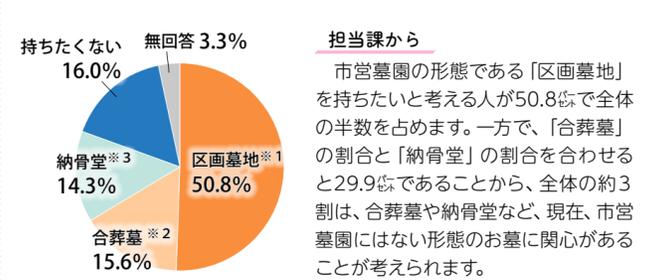
お墓について

現在、お墓をお持ちですか。



担当課から
「親族のお墓はあるが引き継ぐ予定はない。また、将来、そのお墓に自分や家族が入る予定はない」が21.1%、「自分や親族のお墓がどこにもない」が4.7%であることから、自分が入るお墓がない人の割合は25.8%です。今後も、望むお墓の形態の動向を見ながら、市営墓園の在り方を考えていく必要があります。

現在のお墓の有無にかかわらず、どのような形態のお墓を持ちたいですか。



担当課から
市営墓園の形態である「区画墓地」を持ちたいと考える人が50.8%で全体の半数を占めます。一方で、「合葬墓」の割合と「納骨堂」の割合を合わせると29.9%であることから、全体の約3割は、合葬墓や納骨堂など、現在、市営墓園にはない形態のお墓に関心があることが考えられます。

※1 一家一区画の従来のお墓
※2 家族・親族に限らず多数の人を1つのお墓に埋葬するお墓
※3 骨箱や骨壺に入れたまま遺骨を収蔵する建物